

保健だより

7号

令和元年 10月7日

出雲崎中学校 保健室



昼間は暑いですが、朝晩の気温は肌寒く気温差が大きい今日この頃です。さて、出雲崎中学校では、学習発表会に向けて着々と準備が進められています。生徒の様子は、かぜ引きがちらほらと見られる程度ですが、体調管理をよろしくお願いします。

10/1 薬物乱用予防教室を行いました。

講師に保護司の遠藤悦子様をお招きし、3年生を対象に行いました。生徒にとって分かりやすい授業となるように『DVD』や『薬物の標本』を準備くださったり、芸能人の薬物情報やご自分の担当している薬物患者のお話を取り混ぜて、大変興味深くご指導くださいました。

また今でこそ、このような薬物乱用防止教室が開催されるようになり、薬物の怖さを学ぶ場がありますが、大人たちはその機会が無く、薬物の怖さを知らない方もいらっしゃるため、大変心配であるとおっしゃっていました。最後に生徒の授業後の感想を載せましたので、ご覧ください。



「保護司 遠藤 悦子 様」

○ 今回の薬物乱用防止教室で、私は薬物の危険性などを改めて確認できた。私は薬物についてはTVなどで初めて知ったのだが、こうしてしっかりとした専門の方からビデオを見せてもらうことで、より危険性が理解できたし、薬物をしている学生などがいることもわかった。私はそういう方に誘われたりしたら、どう断るかを考えて、絶対に自分もしたり、友人にさせたりしないようにさせたいと思う。そして、それがもし、自分より力の強い大人だった場合、すぐに逃げたりとかしようと思った。



○ 薬物乱用防止教室を受けて、薬物は本当に危険なものだなと改めて感じました。特に危ないと思うものは、覚醒剤やマリファナなどです。友達とかに誘われたり外国で紙袋に入ったものを渡されたり、友達付き合っても危険なんだな、と改めて感じました。だけど、もし僕が友達や知らない人に危険なものを渡されたら断れないかもしれませぬ。もし、断った後に何かされるのでないか心



配です。

- 私は今まで薬物は覚醒剤や大麻くらいしか知りませんでした。でも薬物の種類はたくさんあり、それらはアロマやリップクリームなどの日用品に見立てて取引されていることが分かりました。薬物は1回でも乱用すると中枢神経が冒されます。身近な人に薬物を勧められても、はっきり断ることが大切です。もしかしたら、身近な人が薬物を勧めてくるかもしれません。その時は、はっきり断りたいです。



- 私が薬物乱用防止教室で思ったことは、薬物は育てるだけでアウトで、変な好奇心に負けてはいけなかったと思います。あと、断る勇気が必要だと分かりました。この断る勇気は、薬物関係以外でも大切なので、断る勇気を自分で育てていきたいし、断ることの大切さが分かりました。

- 6年生の時の授業で、薬物のことについて学んでから、ニュースを見たりすると本当に、使っている人が増えているなど感じるようになりました。特に芸能人や20代の人も多く出ていて怖さを感じました。今回の授業でも再びビデオを見て、断り方の方法を学びました。「使ってみなよ。」の言葉を言われたら、話題を変えたり、しっかり「いらない。」と断る勇気を常に持ちたいです。また、正しい知識を受けて、自分を大切にしていきたいし、人生の分かれ道を作らないようにして、りんごのことを思い出していきたいです。



- 今回の授業で小学校の時に行われた授業を思い出して受けることができました。自分がやってはいけない、絶対にやらないと決めていても友達や暴力団に誘われてしまったら、きちんと断ることが大切なんだな、と思いました。ある程度の知識がないと、これが薬物だとは分からないと薬物の見本を見て思いました。DVDを見ると薬物をやった瞬間はいい気分になるけれども、やった後でつらい思いをするだけでした。これからもし、薬物やドラッグに誘われても断ったり、その場から逃げて自分の人生を守れるようにしたいです。

